

公私ともに大変お世話になりました

田崎和江*

私は約15年前、10年間のカナダ生活を切り上げ、44歳の時に島根大学の助教授として呼んでいただきました。当時、地球環境科学が日本でもやっと認知しかかったところでした。徳岡先生、飯泉先生、山内先生には赴任に際し、公私ともにお世話になり感謝申し上げます。私の博士論文がく大山・三瓶山の火山灰土中の粘土鉱物>であったことから、岩石鉱物研究グループに入り、ゼミを一緒に行いました。また、大山や三瓶山の調査や学生指導、巡検にも参加しました。大山の露頭の前にいて学生そっちのけで、飯泉先生、山内先生、高須先生が激論を戦わせ、あげくのはて、<じゃあ、あんたはマグマを見たことがあるのか>といったよくわからない討論もありました。

私が金沢大学に移ってから、飯泉先生は私の卒論生の大島さんのバイオマットの指導を引き継いでくださいました。その時も<堀川のどぶさらいにつきあっています>といいながら試料採集のために、ご自分の車に彼女を乗せて、指導してくださいました。また、モンゴルの女子留学生を連れて、金沢大学にいらっしゃったこともあり、口では厳しいことを言いながら女性には親切であったと思います。その帰りに福井のスイセン群生を見て、奥様にスイセンの花を買って帰りました。

また、年末に島根から金沢までドライブし、その足で和倉温泉まで、私の学生を連れて行き、私のかわりにもゼミをしてくださいました。当初私も勿論同行する予定でしたが、私の義母が急逝し、私は東京の通夜に行かねばならなくなったのです。さらに、飯泉先生の車でカナダでの私のボスであった Prof. Fyfe をつれて土岐市のウラン鉱床、北アルプスの若い花崗岩を見にいきました。Prof. Fyfe は車のボンネットに手を挟み、包帯をまいて来日しました。飯泉先生はオキシフルを買いに行くなど、お世話もしてくださいました。Prof. Fyfe は<いいずみ>というのがよく言えず<Granite man>と呼んでいました。

Prof. Fyfe と飯泉先生とのつきあいは長く、私が島根大学に赴任した次の年、国際共同研究で飯泉、三宅、後藤（鶴見歯科大）、田崎という日本勢と Prof. Fyfe、シン（中国人留学生）というカナダ勢で<北極ちりとり調査>を行ったことから始まります。白夜にハスキー犬のほえるグリスフォールドの村はずれまで散歩にいきました。谷筋では<真っ赤な雪>を採集しました。北極の帰り道、北米大陸をレンタルカーで横断し、各地で<ちりとり>をしてきました。ケバック州で、飯泉先生はスピードオーバーで250\$の罰金を払い、後藤先生はパスポートなどの入ったバックをレストランに忘れてきて、大騒ぎになったことなどエピソードがたくさんあります。その後も集中講義や IGC で何回もお世話になりました。

だんだん古い話になりますが、飯泉先生と山内先生の東京教育大学時代、私はまだ19歳で、大学教職員組合で働きながら受験勉強をしていました。毎晩、飯泉先生、山内先生をはじめとする岩石鉱物構造の学生や院生とともに大学前の定食屋や中華料理屋に食べに行き、しばしば定時制高校時代の同級生とともに日曜巡検にも参加させていただきました。ですからお二人とは40年間のおつきあひになります。私が鳥取県三朝に移った後も蒜山原団体研究、山陰支部活動で地質調査を一緒にし、楽しい思い出がたくさんあります。

飯泉先生と山内先生との東京教育大学時代からの関わりは、牛来先生、藤田先生、大森先生、そして夫・田崎耕市との関係からすべて始まりました。昨年2月に牛来先生が、8月に夫が逝去し、さらに今年いっぱい飯泉先生と山内先生が退官されることは、本当にさびしいことです。私から島根大学がだんだんとうの

*金沢大学理学部教授 元島根大学助教授

くような感じがします。島根大学にはたった4年5ヶ月しかおりませんでした。私の母校のようなところ
です。いつでも気軽に訪ね、スタッフのかたがたと冗談をいい、一緒に飲みに行き、博士課程の外部審査員
をお願いし、いろいろと無理を聞いていただきました。山内先生には井上多津男さんの学位論文の審査をし
ていただきました。

今後、飯泉先生と山内先生はともに車に気をつけていただき、全国をまたにかけてお元気でご活躍くださ
い。本当に公私ともにお世話になりありがとうございました。



北極グリス・フールドにて。左から、後藤さん、Prof. Fyfe、三宅さん、そして右端が飯泉さん。
手前が田崎